

滋賀県レイカディア大学同窓会



# 湖東支部会報

令和3年1月1日

## 今年こそ良い年になりますように



### 新年の挨拶



湖東支部長  
上野 芳樹

新年あけましておめでとうございます。

昨年は春先から新型コロナウイルスに翻弄され、計画していた行事・活動が全て中止という異常事態が続きました。夏になっても感染者は後を絶たず、今年一年は活動を自粛せざるを得ないだろうというのが率直な私の思いでした。しかし、「コロナに負けるな！やれることはやろう。」という運営委員の強い意気込みにより、10月には松原湖岸清掃活動、11月には日帰り佐和山研修を実施することができました。どちらも多数の参加者があり、湖東支部会員の底力を感じる事ができたのはうれしいことでした。

さて、新しい一年が始まります。コロナ禍を完全には払拭できないものの、湖東支部としては、停滞することなく新たな展開を創っていきたいと思います。

その一つが、新しい湖東支部作品展の形です。これまで会場としてきた彦根市民会館が無くなり、新たな会場探しの結果、ビバシティー階フロアをお借りできることになりました。このなら、一般の方々にレイ大のことを知っていただく上で申し分の無い会場です。現在、6月

中旬にレイ大サポートの会とも連携し、学生募集も含めた湖東支部作品展として開催するという計画を進めています。また、レイ大卒業後、地域でのボランティア活動を積極的に行われているグループもたくさんあります。そうしたボランティア活動紹介のコーナーも設けたいと考えています。単なる作品展から総合的な活動発表の場へと広がりを持たせることで、同窓会湖東支部の更なる活性化が図れるのではないかと期待します。

それにつけても、まずは同窓会員の皆さまお一人おひとりが元気で、自分の趣味やボランティア活動を充実させてくださることが第一です。「三日坊主は何もしない人より三日も偉い」と言った人があります。が、思い立ったらとにかく手をつけてみる。ではどうでしょうか。人間の脳は死ぬまで発達し続けるそうです。

新しい一年が、レイ大同窓会湖東支部にとって飛躍の年になることを願っています。

あけまして

おめでとうございます

上野 芳樹



## 同窓会活動の広場

### 松原湖岸清掃活動

10月28日、彦根松原水泳場付近で湖東支部から27名が参加して、びわ湖岸の環境美化活動を行いました。

本活動は「美しい湖国をつくる会」の参加活動の一環で、今年度で3回目の取り組みとなります。

少し曇りの天候でしたが風もなく穏やかな日で、琵琶湖湖岸より遠くに比良山系や竹生島を眺めながらの清掃活動でした。



湖岸清掃風景と参加の皆さん



### 四支部親善GG大会

10月30日、日野川GG場で湖東・湖北・中部・近江八幡の四支部の親睦GG大会が開催され、湖東支部からは26名が参加しました。

さわやかな秋空のもとわきあいあいにぎやかにプレーを楽しみました。試合は16組の各支部混成チームで行われ、親しく会話も交わしながらのプレーで懇親も図れました。



日野川グラウンドゴルフ場と湖東支部の参加の皆さん



### 日帰り佐和山研修

11月6日、佐和山城跡を探訪する日帰り研修が実施され24名の方が参加されました。

天気は曇りでしたが時折秋の日差しがさす中、紅葉にはまだ少し早い山道を頂上を目指して歩きました。

佐和山山頂からは琵琶湖や彦根城そして遠くに沖島や比良山系を望むことができ、秋の爽やかな半日の日帰り研修でした。



日帰り佐和山研修参加の皆さん



## 地域活動の紹介

### 「笑顔に魅せられて」

34期健レク 佐野栄美子

平成25年1月31日に課題学習として、健レク5名と生活科学1名の6名で立ち上げたサロン・コスモスと平成27年に立ち上げた健康体操は、金亀体操をもとにレクリエーション(レイ大OBの方々にも多数協力していただきました)をしたり、みんなで歌ったり、おしゃべりしたりで楽しいひと時を過ごす場です。

サロンのほうは34期が3名残り、あとは33期、35期、36期、39期の卒業生さんの協力を受けてやっています。会員さんはサロンも健康体操もよく似たメンバーですが、体操だけ参加という方もおられます。

それが今は、新型コロナウイルス感染症防止のため自粛しております。でも会員の皆さんも、そろそろ再開を待っていてくれるみたいですので、12月頃から形を変えて再開するつもりです。しばらくは体操だけかなとも思っております。

またいつものようにサロンを開き、レイアウトの方々の協力を得ながら、楽しく過ごせる時が来ることを、会員の皆さんの笑顔とおしゃべりに元気をもらっているように思っております。

## グループハウス「けんじいの家」の剪定

せせらぎ三九良会の6名は、課題学習で金屋橋の犬上川沿岸遊歩道の桜並木と甲良町下之郷にあるグループハウス「けんじいの家」の二つを選んで整備を進めてきました。卒業後も、甲良の40期の仲間や39期の仲間と声を掛けて、いつも10人前後が集まって作業をしています。

「けんじいの家」というのは、5名までの入居者が共同生活をして暮らせるようにした施設で、その中には交流用和室もあって、地域の人や子育て中の親子等が気軽に立ち寄れる場にもなっています。けんじいの名は昔、健さんと慕われた金物屋のお爺さんの大きな家を改築して利用しているからです。

この家の前庭・主庭・中庭には、大小50本もの樹木が植わっており、剪定、下草刈など結構大変です。11月から3月の農閑期の寒い時期に毎年数回、剪



佐野 栄美子さん

39期園芸学科 上野清治

定をしています。

何ととっても、一番嬉しいことは、隣のほっと館に通われる人々から「綺麗にしてくれやった！」と感謝の声を頂いた時と休憩に温かい和室で持ち寄ったお茶と菓子で過ごす団欒の時です。半日ですが、私にはやがいのある貴重な場所となっております。



せせらぎ三九良会のメンバー

## 古刹の歴史に学ぶ景観づくり

高源寺プロジェクト6 40期園芸学科 寺嶋作雄

鎌倉時代に創建され、佐和山城の裏門が移築された多賀町の古刹「高源寺」で、卒業後も課題の取組みを6名で継続して活動しています。

竹穂垣の整備は、卒業後の10月に活動を再開し、確保しておいた材料で一旦5mを整備しました。その後、新たに竹穂を調達し翌年5月に更に8mを整備し、総延長31mの整備が完成いたしました。

整備で一番大変だったのは竹穂（竹の枝）の調達です。11月の適期に竹を伐採し枝を採取して葉をむしり、節で切断して長さを整えます。竹穂は全部で4500本使用いたしました。竹および竹穂を提供いただきました同期のメンバーに感謝いたします。

また、「百花は山野にあり」紫陽花寺をめざして、滋賀県緑化推進会「緑の募金」事業で交付頂いた紫陽花の苗木の植栽を行いました。今春には各々が挿し芽により育てた苗木を持ち寄って、更に紫陽花を増やす計画をしています。

庭園や境内には樹種も多く、また松の剪定もありますので、園芸学科2年生の（コロナ禍で延期になった）校外学習の実習場所として提供頂きましたことに感謝申し上げます。

その際には私たちもサポーターとして参加させていただきました。また、竹穂垣などの取り組んだ課題学習の成果を見て頂きましたことを嬉しく思っています。



完成した竹穂垣

# 訪問コーナー

## 思ふ言ひ「考」のじゆ

老犬十五期 高木徳本 とくほん

老犬の会報に寄稿を依頼された。

私の書架に、「わが老春（老犬の思い出）」と題したアルバムが四冊ある。取り出した一冊目を目の前にして、当時を振り返っている。平成四年十月に入学の十五期生。早や二十八年の歳月がたっている。アルバムの一ページに「入学許可書」校長稲葉稔と記した紙と、「学生証」が貼つてある。そして、次のページには文芸学科同級生の氏名、生年月日、住所、電話の一覧が納まつている。いま、あらためて名簿に目をやり、物故者の多きに驚いている。それもそうだろう、二十四名中、大正生まれが十七人もいるのだもの。私の知る限り現存者四人である。

さて、老犬二年間は、書や俳句その他もろもろを楽しませてもらった。授業のあとは、気心の合う仲間、喫茶店に陣取って駄弁を交わして散会した。卒業後も年に一度は忘年会をもって人生を謳歌したが・・・今やなし。

老犬時代に楽しんだ俳句は、卒業後の今も短歌とともに私の生活の一部としてあり、晩酌の楽しみと同じ位置にある。

先年、私は次のような俳句に出会い、頭をひねったことである。

「考の漁継ぐと答辞の卒業生」「考」の字が読めない。「かんがえる」と「かう」の二つしか知らない。辞書の厄介になり、亡くなった父のことで「考」を「ちち」と読むのであった。これでこの句の意味がはっきりし、この句の情景があざやかにになった。

卒業式するとき、卒業生の代表で答辞を読んでいる生徒は、亡くなった父の漁師の仕事を継ぐというのである。



高木 徳本氏

ところで亡くなった母は「妣」と書き「はは」と読むこともそのとき知ったことである。「考妣（かうひ）」といえは、亡き父・母のじゆである。漢字の世界は広い、広いと思ったことです。

\*\*\*\*\*

甲良町金屋の浄土真宗大谷派養照寺に高木様をお訪ねし、レイ大の思い出話や小学校教師時代のお話を沢山聞かせいただきました。そして寄稿をお願いしましたところ快諾を頂きました。

老師は九十五歳になられた今もお元気に檀家さん廻りをされています。

なお、自坊は湖東支部の歓迎会場「一休庵」のすぐお近くですので、次回の参加を楽しみにいたしております。

合掌

訪問者 40期園芸学科  
寺嶋作雄



佐和山から彦根市街を望む

### 編集後記

会員各位には健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの影響で軒並み中止となっていた同窓会行事も、秋になって漸く動き出し、紙面でも一部紹介することができましたが、今号も会員の活動の紹介が中心となりました。寄稿いただいた高木徳本様はじめ会員の皆様に感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの動向が依然気がかりですが、何とか感染拡大を克服し、今年こそ良い年となりますよう祈るばかりです。引き続き会員各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。

滋賀県レイカティア大学同窓会  
湖東支部会報

令和3年1月1日発行

令和2年度第2号

発行責任者 上野芳樹

編集責任者 廣田由行